

褥瘡発生率

《指標の説明・定義》

褥瘡は、疼痛などにより患者の QOL（生活の質）の低下をきたすとともに感染を引き起こすことなど治療が長期に及ぶことによって、結果的に在院日数の長期化や医療費の増大につながります。

《計算式》

分子：調査期間における分母対象患者のうち、d2以上の褥瘡の新規院内発生患者数

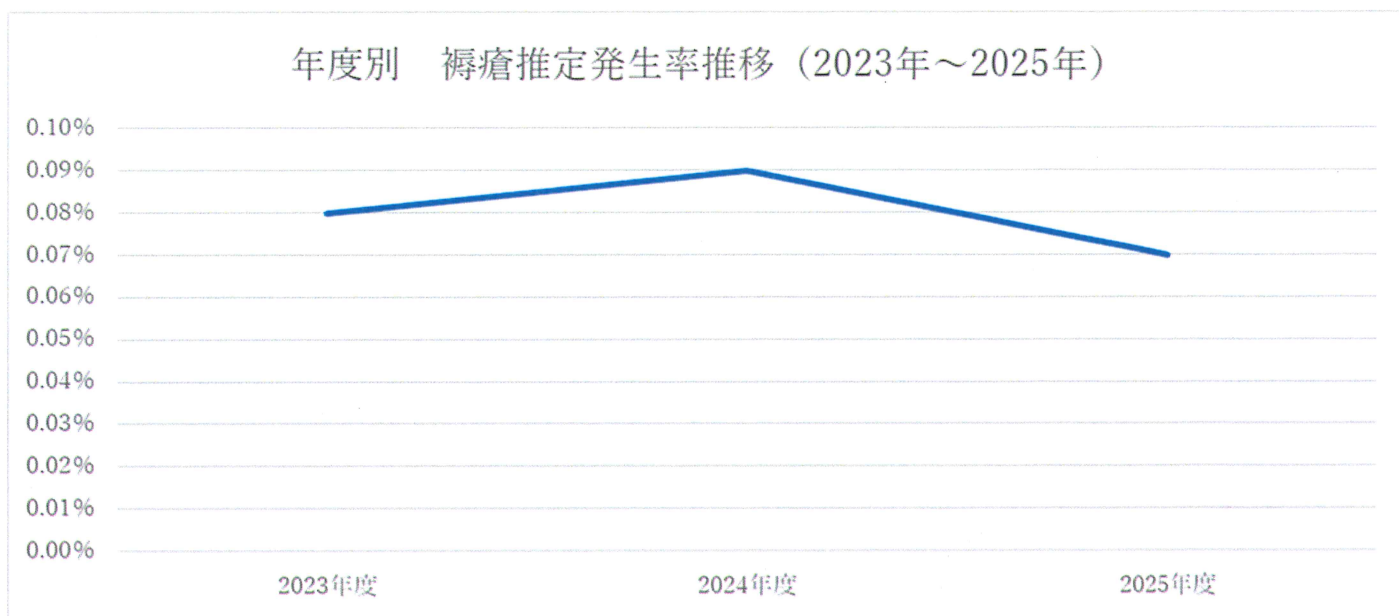
分母：入院延べ患者数

褥瘡評価用 深さ (Depth) の分類	
d0	皮膚損傷・発赤なし
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織を超える損傷
D5	関節腔・体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合

《褥瘡発生率》

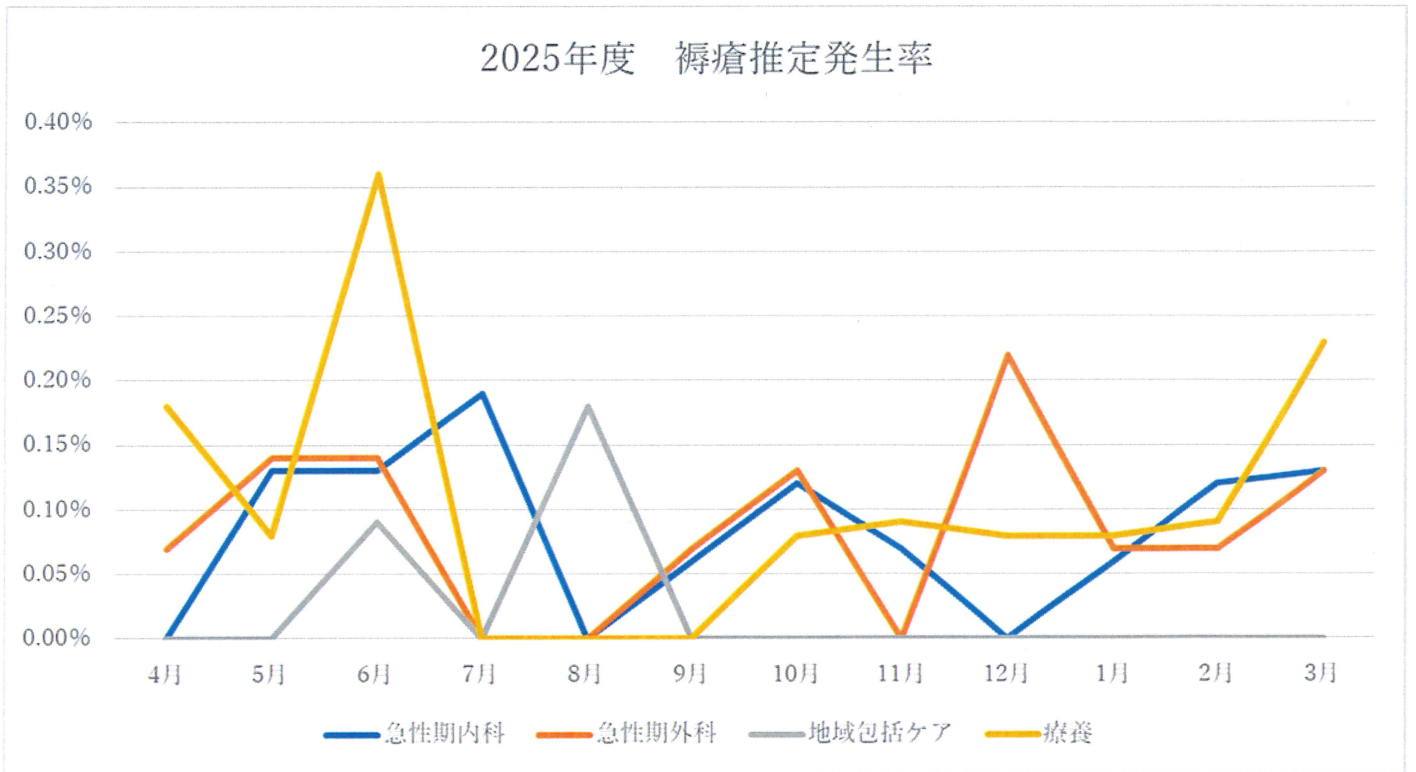
年度別 褥瘡推定発生率推移

	2023年度	2024年度	2025年度
年間平均値	0.08%	0.09%	0.07%



褥瘡推定発生率（月褥瘡推定発生者数/のべ入院患者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2025年度平均
急性期内科	0.00%	0.13%	0.13%	0.19%	0.00%	0.06%	0.12%	0.07%	0.00%	0.06%	0.12%	0.13%	0.08%
急性期外科	0.07%	0.14%	0.14%	0.00%	0.00%	0.07%	0.13%	0.00%	0.22%	0.07%	0.07%	0.13%	0.09%
地域包括ケア	0.00%	0.00%	0.09%	0.00%	0.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%
療養	0.18%	0.08%	0.36%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%	0.09%	0.08%	0.08%	0.09%	0.23%	0.11%



2025年度の褥瘡推定発生率は0.07%と前年度より0.02%発生率の減少がみられました。

当院では予防対策に活かすため、褥瘡の新規発生時には各病棟のチームスタッフでカンファレンスを開催しなぜ褥瘡が発生したのかをアセスメントし対策を立てる活動を行っています。カンファレンスを行うことで発生リスクの高い患者さんへのアンテナを高め、スタッフ一人一人が意識してケアを行う事ができるようになり褥瘡の発生予防に繋がったと考えます。

超高齢社会に伴い、入院患者さんは日常生活自立度の低い方や痩せており著明に骨突出がみられる方など褥瘡発生リスクを保有する方が多く見られます。患者さんが安心して療養生活が過ごせるよう、褥瘡の新規発生予防・早期治癒を目指し、週1回の褥瘡回診や院内研修を継続していくとともに、ポジショニング・ラウンドの強化、現場教育を行っているリンクナースの研修などを行い、スタッフ一人一人が基本的な予防ケアに加え、質の高いケアが提供できるよう努めていきます。